

令和元年9月12日

ALIC/USMEF 定期情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、米国食肉輸出連
合会（USMEF）と定期情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本、米国の食肉の需給状況等について意見交換を行う場として
両国において、原則として毎年度交互に開催しており、今回で通算33回目と
なります。

記

1 日 時：令和元年9月5日（木）午前10時00分～11時30分

2 場 所：ALIC東京本部

3 参加者

ALIC

佐藤（理事長）、近藤（副理事長）ほか

USMEF

ダン・ホルストロム（会長）ほか

4 会議内容

ホルストロム会長と佐藤理事長の挨拶の後、双方から米国及び日本の食肉
需給について説明し、意見交換を行った。

<USMEFからの米国の食肉需給についての説明概要>

【牛肉関連】

- ・2019年の牛肉生産量は、フィードロットの飼養頭数が増加していること等に
より前年比0.6%増と見込んでいる。2020年も同1.9%増と見込んでおり、記
録的水準に達すると予測している。
- ・これは、飼養頭数の増加だけでなく、家畜改良の成果による1頭当たり枝肉

重量の増加も大きい。サステナビリティの関係もあり、より少ない頭数で生産量を確保、増加させることを目指している。

- ・牛肉格付けの最上位等級である「プライム」の発生率が高まっており、2019年は記録的水準である8.6%に達する見込みである。これは、トウモロコシ価格が低位安定していたことが要因である。
- ・国内外の需要が強いため、生産量が多いにも関わらず牛肉価格は堅調に推移している。
- ・中国向け輸出については、南米諸国と違い、米国産牛肉の中国向け輸出シェアは低い。関税率が47%と高いため、今後輸出が増加したとしても少量となる見込である。

【豚肉関連】

- ・2019年の豚肉生産量は前年比5.1%増、2020年は同2.8%増と見込んでおり、いずれも過去最高となると予測している。
- ・昨年はパッカーの利益率が高かったが、今年は生産者、パッカー双方が利益を上げている。3年間で5カ所のプラントが建設された。現状は、飼養頭数、生産量も好調であり、パッカーの生産能力も確保できている。
- ・パッカーの収益性は、輸出需要の影響が大きい。この恩恵を受けやすくするためにも、生産者とパッカーの連携、インテグレーション化が進展している。
- ・1腹当たり出生頭数が増加している。15~16頭/腹で、年間(2.3産)では35頭程度。これにより、母豚1頭で1万ポンド(4536kg)/年の豚肉生産(生体重量)が可能となっている。

なお、ALICからは、日本の牛肉および豚肉の直近の需給動向等について説明を行った。

問い合わせ先

調査情報部 石井、藤原

電話 03-3583-9804、4397